

# 岩陰・水尾 活性化取組み

## 住まいアンケート、バスラッピング

岩陰・水尾地域ともこの時期はあまり行事もなく、少し落ち着いてきたので、現在は活性化の取組みにいそしんでおります。私も微力ながらお手伝いさせていただいております。

### 岩陰の取組み

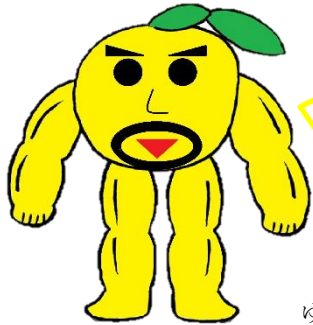
岩陰活性化実行委員会では、地域の方の住まいをよりよく維持・管理し、次世代に継承していくための取組みの一環として、住まいアンケートを取りました。様々な意向やお悩みをうかがい知ることができ、今後の課題もいくつか見つかりました。

また、マルシェや広報活動で使用するパネルやポスターもできました。岩陰のウェブサイトも現在制作中です。新たな魅力発信のツールができつつあり、今後が楽しみです。

### 水尾の取組み

現在の自治会バスは少し地味なので、単なる移動手段ではなく「乗りたい」と思えるバス、地域の魅力発信の場としてのバスへの転換を図るべく、バスのラッピングを計画しております。魅力あるバスになって、多くの人に水尾を訪ねてもらえると嬉しいです。

京都市文化市民局地域自治推進室北部山間かがやき隊  
岩陰・水尾地域担当 五明 昇祐  
京都市右京区嵯峨嵯原宮ノ上町二一五 岩陰出張所  
電話 〇七七一 四四 〇三一四



ゆず郎

おっ、そうだな。  
俺は水尾バスにも描いてほしかったゾ www

俺らのグッズとかもできたらいいんじゃないですかねえ・・・。



グァ太郎

## 今年もきれいな花を

### 水尾フジバカマ畑片付け

二月二日、水尾のフジバカマ畑の片付けを行いました。枯れたフジバカマを刈り、燃やして処分しました。今年もきれいなフジバカマが咲くことを楽しみに作業に励みました。



フジバカマを燃やすと、見事な火柱が立ちました。「焼き芋でも焼いたらええんやないか」という人も。ちよつとした焚火気分です。



## 日の要慎

▽右京区の太秦は古代、渡来人秦氏の本拠地だった。広隆寺は秦氏の氏寺だ。始皇帝で知られる秦は中国初の統一王朝であり、一説に秦氏は始皇帝の子孫ともいわれている。

▽昨今、外国人観光客や労働者が増え、あまり良いイメージを抱かない人々もいたりする。確かに言語や習慣も違う外国人を受け入れることに抵抗を覚えることもあるだろう。

▽日本は島国であることから、排他的なイメージがあるが、古代日本を見ると、異文化・外国人を受け入れる土壌がある。むしろそれを経て独自の文化を形成していった歴史がある。仏教、儒教、漢字然りである。

▽私はプライベートで外国人に文化や歴史を教えているのだが、改めて日本の文化や歴史について再認識させられたり、こちらが意外に知らなかったりする。外に向き合って改めて気づくこともあるものだ。

\* 「隊員雑感」は今月号から「日の要慎」と改題いたしました。愛宕神社のお札「火酒要慎」に倣っています。

# 当事者意識をもつて活性化に取り組もう

## 小さな努力の積み重ねを

「棚田」「ゆず」は割とライバルがいる

先日、移住フェアや研修で東京に行きました。そこで、地域活性化に取り組んでいる他の自治体の人々と語らう機会があり、お互いに情報交換をすることができました。「私たちの地域は棚田が見事なんですよ」「ゆずがうちの売りなんです。」という地域の人も少なからずいました。

すかさず、「どんな取り組みをしていますか?」「どんな柚子製品を売っていますか?売れ行きはどれぐらいですか?」と聞いてみたところ、割合どこも同じような取り組みをしていたりするのですが、一方で、同じような製品を売っていたりするのに、結構人気があったりするのです。似た名所・特産品がある地域と、どれだけ差をつけられるか、といったことが地域の活性化の勝負所だとも実感させられました。

### 地域活性化とは、都市部や他地域との競争

少子高齢化による人口減少が進行している現状において、どの地域も等しく移住者が増える、地域が活性化するというわけにはいきません。加えて、都市部への人口集中には歯止めがかかっていません。結局、移住促進をめざす、地域の活性化といっても、少ないパイの奪い合いになるのです。

こうした現状を踏まえると、都市部や他地域との競争に打ち勝つ取り組みをしなければ、地域の活性化はおろか、地域の維持すらままなりません。今まで通りで何とかなる、誰かがどうにかしてくれる、といった人任せな考えでは、競争に負け、悲劇的な結果を招きしかねません。

地域活性化のためには、当事者意識を持ち、積極的に動くべきだと自覚させられたこの八か月でした。

これまでの取り組み十少しの努力でできること

宍陰地域には見事な棚田が広がっています。水尾地域にも花園帝以来の実生柚子が脈々と伝わっています。これが宍陰・水尾地域の特色であり魅力です。しかし、今後それをだれが担っていくのかがやはり問題になっています。それを廃れさせるのはもったいないのです。

地域活性化は短い期間でどうにかなるという問題ではありませんし、地域の方の負担を考えると、いきなり大きなことをするというのもできないと思われれます。

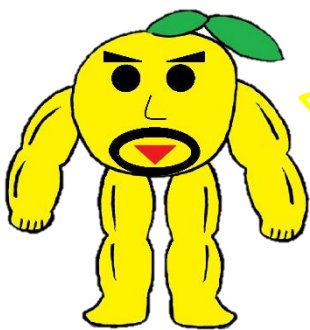
現在まで継続している取組み、これを継続することをベースに少しの努力でもできる取組みを上乘せしていくことが現実的なのではないか、と思われれます。

また、地域の人だけでなく、外部の関係者・あらゆる人が参画できること、実は外部の人は結構関わりたがっていました。

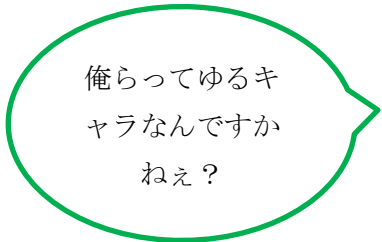
### 隊員としての自分にできること

昨年の七月号において「自分にできることからコツコツと活動すること」こそが使命であると申し上げました。

コツコツと地域のお手伝いをさせてもらっているうちに、独自に活性化の活動ができないと思っていた中、「ゆずサシェ」ができたり、ゆるキャラができたり、マルシェ等で広報ができたりと、ひとまずの成果の基礎となるところはできたかな、と思っております。来年度も宜しくお願いいたします。



いや、どう見てもユルクはないゾ・・・



俺らってゆるキャラなんですかねえ?